

地域における気象防災支援の強化

地域でより役立つ気象台へ

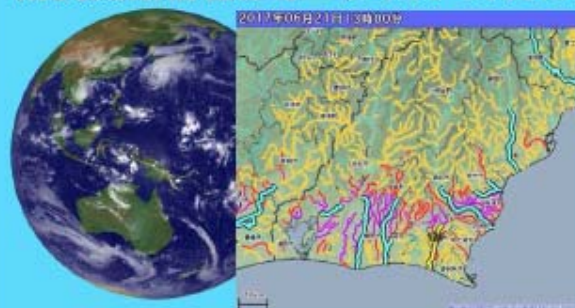


静岡地方気象台

12:00

地域における気象防災業務のあり方の検討(平成29年度)

防災気象情報は年々、改良・高度化



毎年のように気象災害は発生



防災気象情報は十分に活用されているか？
気象台が地域の気象防災にもっと役立つ道は？

地域における気象防災業務のあり方の検討会



学識経験者、報道機関、自治体、関係省庁からなる委員により平成29年4月から7月にかけて審議が行われ、検討結果が8月に発表されました。

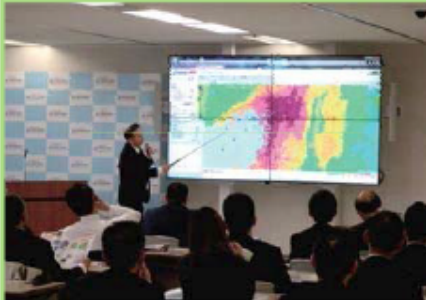
地域における気象防災業務強化の方向性

- 「防災意識社会」を担う一員としての意識を強く持ち、市町村、都道府県、関係省庁の地方出先機関等と一体となって、住民の具体的な防災行動に結びつくよう、地域の気象防災に一層貢献
- 防災の最前線に立つ市町村に対し、既存の防災気象情報や“危険度分布”等の新たな情報を緊急時の防災対応判断に一層「理解・活用」(読み解き)いただけるよう、平時からの取組を一層推進

大雨等の緊急時に、自治体の緊急の防災対応の判断等に防災気象情報をより一層活用いただけるように3つの場面での対応を強化。

平時

防災気象情報の「読み解き」に資する取組の推進等



防災担当者向けの説明会

緊急時

気象解説の充実、自治体への職員の迅速な派遣等



気象状況の解説・助言

災害後

緊急時の対応を共同で「振り返り」、さらなる改善。



災害対応について関係者で振り返り

3

今後の気象台の具体的な取組(予定)

☆地域防災支援強化のための予算措置、体制強化等が実現するまで待つことなく、既存の取組を見直し、**できるところから強化。**

気象台と自治体の「顔の見える関係」の構築

市町への首長訪問や防災担当者打合せを計画的に実施し、信頼関係を醸成し、緊急時の連携を確実にする。



(参考)首長訪問実績
平成27年度 6市町
平成28年度 16市町
平成29年度 19市町
(年度内に20市町以上の予定)

緊急時の自治体への気象解説、ホットラインの確実な実施

台風や大雨などで大きな災害が予想される場合は、警報等の適時適切な運用に加えて、ホットライン等により、直接気象台の危機感を伝えて、市町の防災対応を後押し。



首長・台長間、防災担当者・管理官間のホットラインは気象台からだけでなく、市町からの疑問に答える形で双方向で運用。

気象防災対応支援チーム(仮)の創設

災害発生時に、地元気象台だけでなく、周辺気象台も含めた広域応援体制により、自治体への職員の迅速な派遣を組織的・計画的に実施し、自治体の災害対応を支援。



4